

2025年1月の東京都食中毒発生状況（速報値）1月31日現在

1月の食中毒速報値が東京都から発表されましたのでご紹介します。

1月は発生件数4件、患者数は19名でした。

なお、昨年12月の発生状況は速報値で6件、患者数は48名でしたが、1月末の時点で9件、72名と増加しました。

昨年の確定値はまだ発表されていませんが、速報値では114件、1,535名となっています。

詳しい状況は後述します。

1 事件数（1月分の計）

4件（2024年同期19件、2023年同期9件、最近10年間の同期11件）

2 患者数（1月の計）

48名（2024年同期628名、2023年同期114名、最近10年間の同期235名）

3 死者数（1月分の計）

0名（2024年同期 0名）

4 月別食中毒発生状況

（1）2025年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	4												4
患者数	48												48

（2）2024年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数	19	15	12	10	8	7	10	5	7	8	4	9	114
患者数	628	216	95	51	86	32	144	34	22	123	32	72	1,535

（3）2023年月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数	9	8	14	11	12	17	15	9	11	9	11	11	137
患者数	114	90	41	111	40	154	63	25	39	29	49	123	878

（4）最近10年間の月別発生状況（2023年までの平均値）（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数	11	12	14	10	9	12	11	9	10	10	9	10	127
患者数	235	250	107	154	75	93	66	343	66	81	77	142	1,688

5 病因物質別発生件数

1月の食中毒は、ノロウイルス食中毒2件、A群ロタウイルス食中毒及びセレウス菌食中毒がそれぞれ1件ずつでした。昨年1件も報告されなかったA群ロタウイルスと昨年1件だけしか発生しなかったセレウス菌食中毒が1月に発生した一方、御三家ともいえるアニサキス食中毒とカンピロバクター食中毒の報告がありませんでした。少し変わった年明けになりました。

		令和7年（2025年）				令和6年（2024年）					
		1/1～1/31		累計(1/31まで)		1/1～1/31		累計(1/31まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)
ウイルス	ノロウイルス	2	24	2	24	11	553	11	553	36	1,056
	A群ロタウイルス	1	17	1	17						
細菌	カンピロバクター					3	8	3	8	26	151
	黄色ブドウ球菌									2	26
	ウエルシュ菌					1	26	1	26	7	164
	セレウス菌	1	7	1	7	1	38	1	38	1	38
	サルモネラ									1	3
	腸管出血性大腸菌									2	7
	ボツリヌス菌										
	赤痢菌									1	12
寄生虫	カンピロバクター及びサルモネラ									1	4
	アニサキス					3	3	3	3	34	34
化学物質	クドア・セブテンpunkタータ									1	18
	ヒスタミン									1	20
自然毒	次亜塩素酸ナトリウム									1	2
	植物性自然毒										
	動物性自然毒										
	不明										
合計		4	48	4	48	19	628	19	628	114	1,535

6 原因施設別発生件数

1月の原因施設は、一般飲食店が3件、要許可集団給食施設が1件でした。

		令和7年（2025年）				令和6年（2024年）					
		1/1～1/31		累計(1/31まで)		1/1～1/31		累計(1/31まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)
飲食店	一般	3	31	3	31	15	422	15	422	88	967
	仕出し									1	67
	そうざい										
	自動車										
集団給食	要許可	1	17	1	17	1	111	1	111	7	274
	届出									2	86
魚介類販売業										4	4
そうざい製造業											
家庭										3	3
臨時出店						1	80	1	80	1	80
その他						1	14	1	14	2	38
不明						1	1	1	1	6	16
合計		4	48	4	48	19	628	19	628	114	1,535

(注)飲食店の「一般」には、一般飲食店、すし屋、弁当屋、そば屋を含む。

集団給食施設で発生した食中毒の原因はA群ロタウイルスでしたが、立川市内の高齢者施設での集団食中毒ということで、東京都では1月21日に報道機関に発表しました。

それによると、患者3名と調理従事者1名の糞便、施設のふき取り検査2検体及び検食1検体からロタウイルスが検出されたとのこと。

症状は下痢とおう吐が主で重症者はいなかったようです。

原因食品は特定されていません。

ロタウイルスは乳幼児が感染しやすく、5歳までにほぼすべての子供が感染するようです。

感染力が非常に強く、症状も比較的重くなるようです。

感染した調理従事者からの2次汚染による食中毒が発生しているということで、ノロウイルスと同様の予防対策が必要です。

7 食中毒のことや発生状況についてもっと知りたい方は

(1) たべもの安全情報館 知って安心～トピックス～(東京都保健医療局)

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin//anshin_topics.html

(2) 東京都の食中毒発生状況

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin//tyuudoku/index.html>

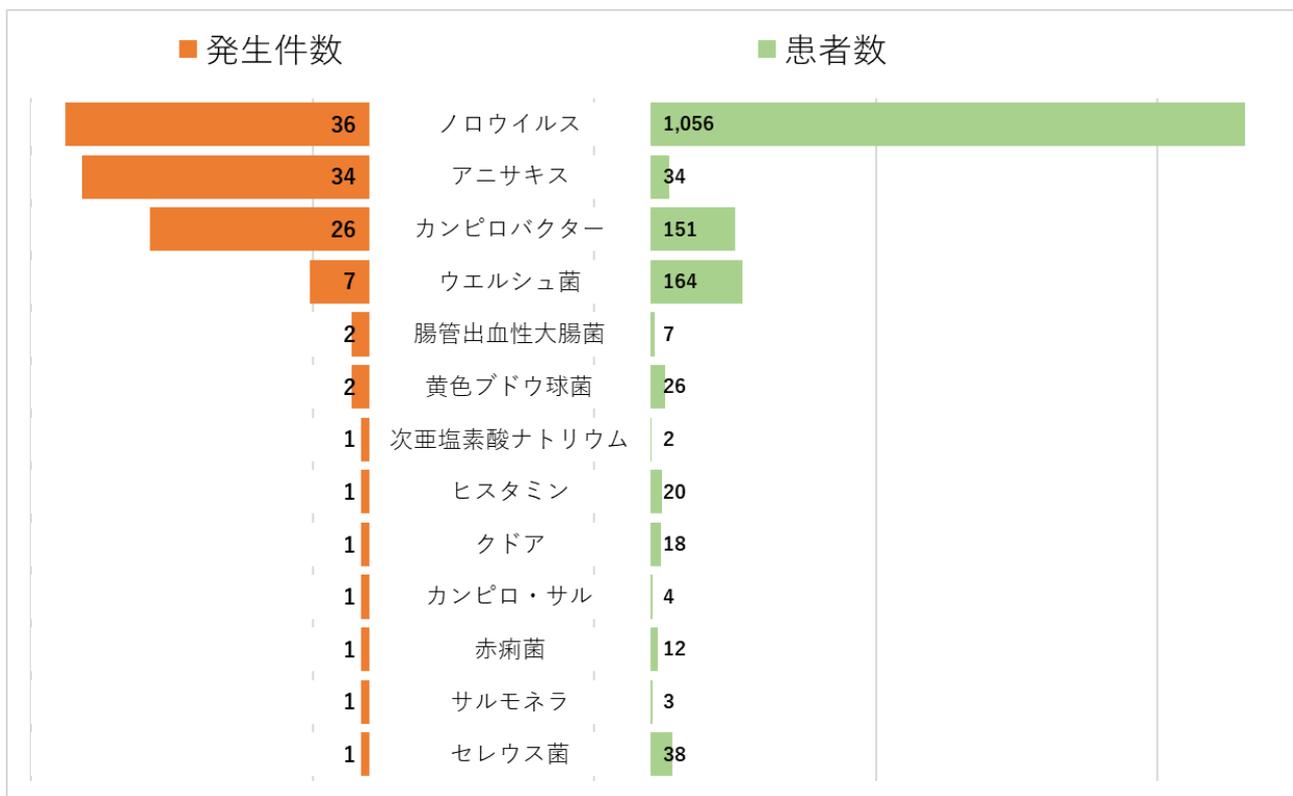
(3) 全国の食中毒発生状況 (厚労省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html

8 元食品衛生監視員のつぶやき

2024年次の都内の食中毒発生状況は現時点ではまだ速報値ですが、確定値と大きな差はないと思いますので概要をご紹介します。

下のグラフは、病因物質別の発生件数と患者数を示したものです。



2023年次には発生件数で第3位だったノロウイルス食中毒が第1位となり、患者数も突出しています。

ノロウイルス食中毒はコロナ禍の中で飲食店等の営業が制約されたことや従事者の手洗いや消毒が徹底されたことで非常に減少しましたが、飲食店の営業が戻るとともに大幅に増加しました。

次の表は 2023 年次と 2024 年次の病因物質別の発生状況です。

	2024 年		2023 年	
	件数	患者数	件数	患者数
ノロウイルス	36	1,056	16	358
アニサキス	34	34	70	74
カンピロバクター	26	151	29	144
ウエルシュ菌	7	164	4	149
黄色ブドウ球菌	2	26	3	41
腸管出血性大腸菌	2	7	1	3
セレウス菌	1	38	1	7
サルモネラ	1	3	5	59
赤痢菌	1	12		
カンピロバクター及びサルモネラ	1	4		
クドア・セプトエンクタータ	1	18	1	9
ヒスタミン	1	20	1	2
次亜塩素酸ナトリウム	1	2	2	3
ウエステルマン肺吸虫			1	2
植物性自然毒			3	27
合計	114	1,535	137	878

ノロウイルス食中毒が 2 倍以上発生し患者数では約 3 倍となっています。

逆に、アニサキス食中毒は発生件数、患者数共に半減しています。

厚生労働省が発表している全国の食中毒速報では、ノロウイルス食中毒が前年比 1.33 倍、アニサキス食中毒は前年比 0.57 倍となっていて、全国、都内とも同様の傾向を示している点が注目されます。

また、2023 年に 5 件だったサルモネラ食中毒が 2024 年は 1 件だけの報告となっています。

鶏肉の生食や加熱不足が原因のカンピロバクターが減少していないのに対して、同じ鶏肉の汚染率が高いといわれているサルモネラ食中毒が少ない理由はわかっていません。

次に施設別の発生状況を示します。

	2024 年		2023 年	
	件数	患者数	件数	患者数
飲食店（一般）	88	967	93	623
要許可集団給食	7	274	3	45
不明	6	16	18	19
魚介類販売業	4	4	8	8
家庭	3	3	6	11
届出集団給食	2	86	1	54
その他	2	38	3	37
飲食店（仕出し）	1	67	1	9

臨時出店	1	80		
飲食店（そうざい）			1	1
飲食店（自動車、一般）			1	6
飲食店（そうざい）、魚介類販売業			1	1
そうざい製造業			1	64
合計	114	1,535	137	878

一般飲食店営業が発生件数では約 77%、患者数では約 63%を占めました。

この傾向は 2023 年次と変わりません。

2024 年次に多かったのは集団給食施設で、許可施設と届出施設を合わせて 9 件となり、2023 年次の 4 件を大きく上回りました。

今回は、2023 年次の都内の食中毒発生状況についてつぶやきましたが、食中毒は毎年変動が大きい特徴があります。したがって、食中毒の発生傾向を見るためには少し長いスパンで俯瞰する必要があります。

次回は、全国の状況もあわせて最近の傾向を紹介したいと思います。